

地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。

今号では、九州地域ブロックおよび北海道地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

九州地域ブロックから

九州地域ブロック担当理事
岩井 浩英（鹿児島国際大学）

九州地域ブロックでは、今年度も、運営委員および事務局2局体制（福岡県立大学、鹿児島国際大学）を中心とし運営を着々と進めています。

毎年度当初に恒例開催される地域ブロック大会および総会は、2019年6月8日（土）・6月9日（日）の両日、北九州市立大学の担当のもと当大学を会場に行われました。特に、1日目の「SDGsと社会福祉」と題する基調講演とシンポジウムにおいては、北九州市がOECDよりモデル都市としてアジア地域で初めて選定されており、官民一体となつての意識・取り組みを知ることができたこと等、大変有意義な企画であったと思います。また、2日目に組まれた自由研究発表では、若手研究者を中心とする口頭発表が活発になされました。

なお、今回、第60回開催を記念し日本社会福祉学会会長の金子光一先生にも大会1日目および懇親会へのご参加をいただきました。金子会長には、この度のご参加を通し「オール九州」の心意気を多少なりとも感じていただくことができたのではないのでしょうか。

因みに、来年度の大会当番校は西九州大学です。

ところで、九州地域ブロックの研究者をはじめ、九州内の実践家や大学院生等を会員とする九州社会福祉研究会（代表：田畑洋一・門田光司・鬼崎信好・倉田康路・本郷秀和）は、『第2版 21世紀の現代社会福祉用語辞典』を編纂し、昨（2019）年6月に刊行しました（初版刊行は2013年3月）。この研究会とは、社会福祉研究を一丸となつて牽引していく土壌を築くといった観点から2010年5月に組織され、その取組みの一環として辞典編纂・刊行が2度も企画された次第です。

本書は、初版にも増して、社会福祉の学習や実践に必要な用語を数多く網羅し、単なる用語解説ではなく読者の社会福祉における学習を深めることのできる辞典となっています。できるだけ多くの方に本書をご活用いただけることを切に願います。

以上、九州地域ブロックの近況報告まで。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。

北海道地域ブロックから

北海道地域ブロック担当理事
中村 和彦（北星学園大学）

新しい執行体制に移行し、早くも1期2年の活動が終盤に入りました。将来への継続的かつ発展的な活動を期し、これまで学会運営を担っていただいた方に引き続きお願いしつつ、中堅・若手の方々にも参画していただき、新たな方向性を模索しつつ、前進してきているように感じられます。

1年目は、2018年6月に総会・研究大会を終えた後、第15回日本社会福祉学会フォーラム担当として、多くのみなさまにご迷惑をおかけすることとなりましたが、2019年3月9日に『軋む社会とセーフティネット—転げ落ちない社会の構築を目指して』をテーマに基調講演とシンポジウムを開催することができました。また3月29日には研究会として著者の藤高和輝さんをお迎えし『ジュディス・バトラー：生と哲学を賭けた闘い』の合評会をおこないました。

2年目は、二題の研究報告とともに、北海道教育大学の安井友康先生から「障がい者のスポーツ参加と地域福祉」をテーマに講演をしていただき、研究大会を終えることができました。

また若手研究者のバックアップを意図した活動、機関誌『北海道社会福祉研究』の編集・公刊も継続的に展開しています。しかしながら、前者においては、関東地域ブロックとの交流（参加者への旅費の一部助成）をはかりながらも継続的な活動をおこなうことへの困難さ、後者においては投稿者数の減少とともに、査読者確保の困難等を抱え、今後、改善に向けた検討を進めなければなりません。さらには、北海道地域福祉学会等の地方学術団体や、各職能団体等との連携・協働を模索していかなければなりません。

そのような中、新たな取組みにも具体的に着手することができました。北海道は「広域性」が特徴ではありますが、他方で「札幌」中心という課題を抱えています。それを打破していくことも念頭に置き、本年3月1日（日）に、旭川市（旭川市民文化会館）において、『不安定化する「家族」—ソーシャルワーカーの抱く家族像の二面性と葛藤』をテーマに、実践と研究の循環も意識した構成でシンポジウムを開催致します。是非とも多くの方々にご参加いただきたく、ここにご案内する次第です。どうぞよろしくお願い致します。